

世界川物語

3

見えない汚染と戦う

日本との共同研究に期待

「川の恵みは市民にない。川沿いの倉庫は現代のカフェやレストランに姿を変えた。しかし、ドナウ川は今もセルビアの人々の暮らしの間にある。」

ス船に、川沿いの倉庫は現代のカフェやレストランに姿を変えた。しかし、ドナウ川は今もセルビアの人々の暮らしの間にある。

ス船に、川沿いの倉庫は現代のカフェやレストランに姿を変えた。しかし、ドナウ川は今もセルビアの人々の暮らしの間にある。

ス船に、川沿いの倉庫は現代のカフェやレストランに姿を変えた。しかし、ドナウ川は今もセルビアの人々の暮らしの間にある。

ス船に、川沿いの倉庫は現代のカフェやレストランに姿を変えた。しかし、ドナウ川は今もセルビアの人々の暮らしの間にある。

ス船に、川沿いの倉庫は現代のカフェやレストランに姿を変えた。しかし、ドナウ川は今もセルビアの人々の暮らしの間にある。



ドナウ川(セルビア)

ゆったりとしたサバ川の流を受け入れ、ドナウ川はさらに水量を増してかなたまで続く。ローマ帝国の時代から川の合流点を見下ろす丘の上に建つベオグラード要塞から見下ろすと、ここに暮らす人々と川の大切な関わりが見えてくる。

ドイツに源を発し、黒海に注ぐ欧州第2の川ドナウ。かつてここを往来した貨物船は観光クルーズに変わって、今も川沿いの街並みを彩る。

今に残る「有毒の遺産」

た製油所は何日にもわたって燃え続け、黒煙が空を埋めた。

民族対立に端を発したコソボ紛争で北大西洋条約機構(NATO)はユーゴスラビアを空爆、セルビアの工場や発電所、石油精製施設などは徹底的に破壊された。

約3カ月続いた爆撃の後、ドナウには「有毒の遺産」と呼ばれる、目に見えない汚染が残された。発電所や工場からはポリ塩化ビフェニール(PCB)などの有害化学物質が大量に川に流れ込んだのだ。

「もう死んでいる」

空爆直後、国連は化学物質汚染を確認するた

「研究で来日したビアの研究者から、

「川の恵みは市民にない。川沿いの倉庫は現代のカフェやレストランに姿を変えた。しかし、ドナウ川は今もセルビアの人々の暮らしの間にある。」

ス船に、川沿いの倉庫は現代のカフェやレストランに姿を変えた。しかし、ドナウ川は今もセルビアの人々の暮らしの間にある。

ス船に、川沿いの倉庫は現代のカフェやレストランに姿を変えた。しかし、ドナウ川は今もセルビアの人々の暮らしの間にある。



結婚記念日を祝い、ワインで乾杯する夫婦。市内には川を眺めながら食事を楽しめるレストランが数多くあり、店主自らが漁に出るこの店には、取れたての魚を目当てに大勢の客が訪れていた=ベオグラード



「研究で来日したビアの研究者から、